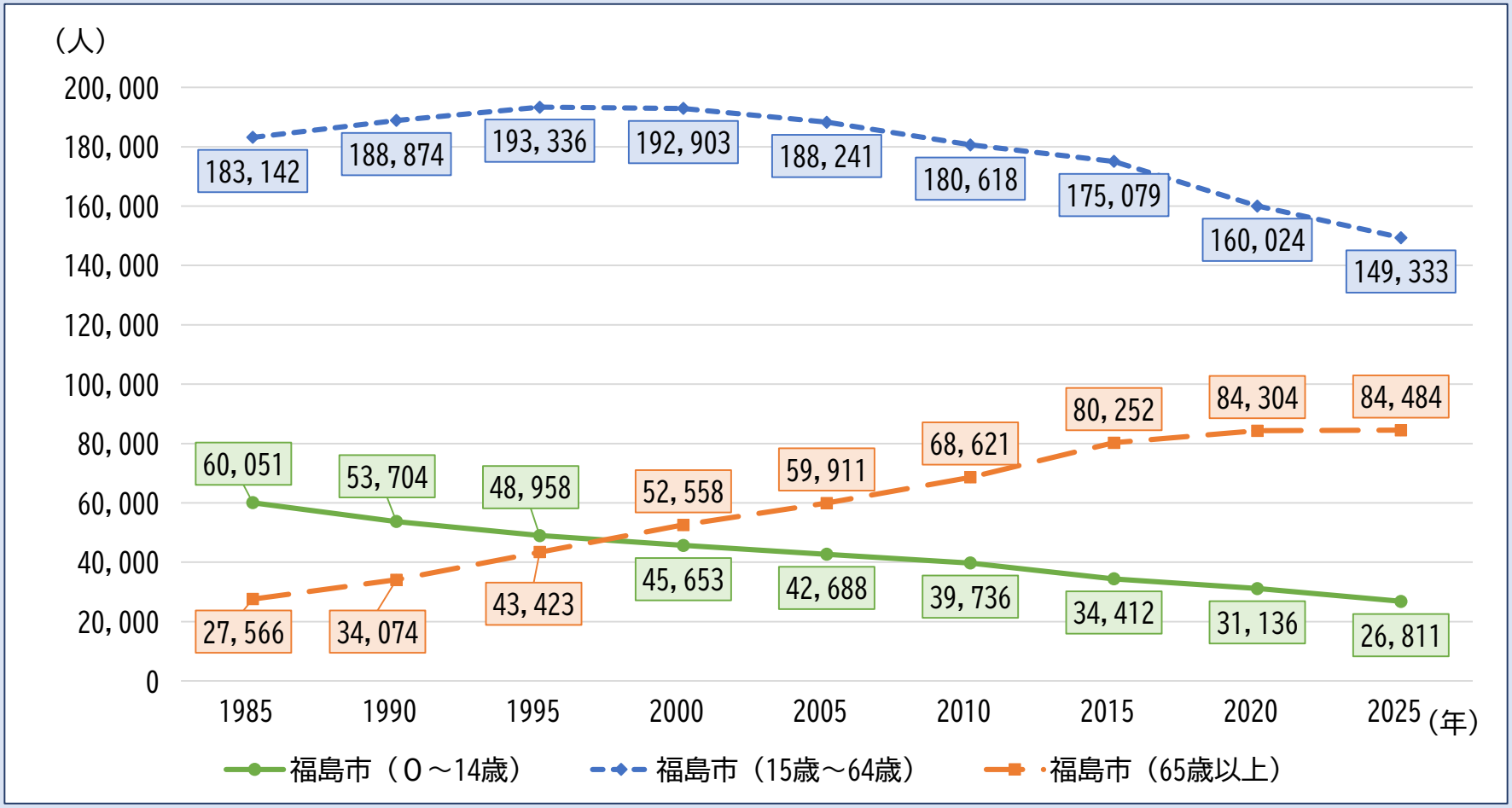
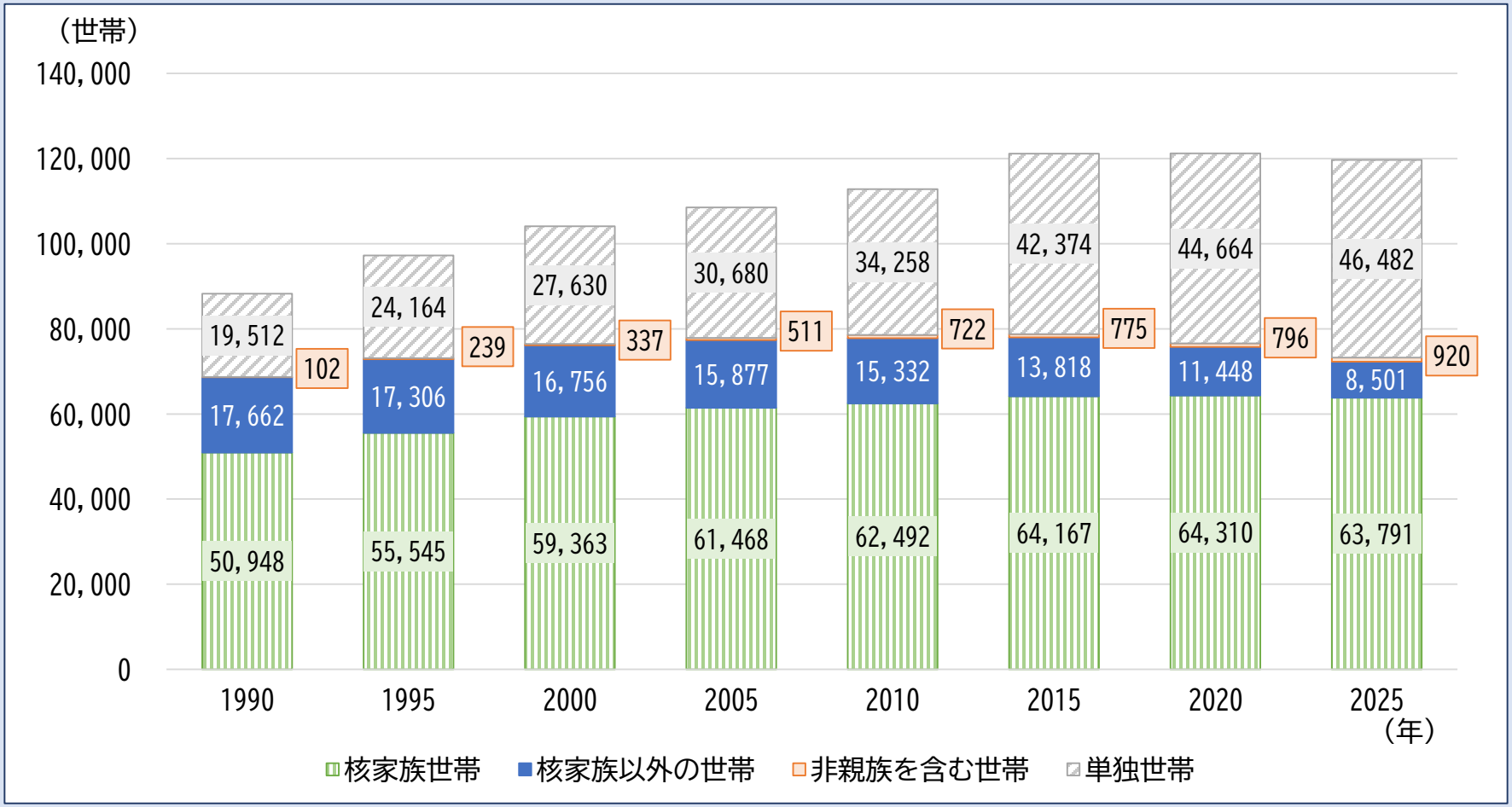
年齢別（３区分）人口

老年人口(65歳以上)は2000年に年少人口(0～14歳)を抜いてその後も差は広がり続けており、生産年齢人口(15～64歳)は2000年以降減少の一途をたどっています。



家族類型別世帯数

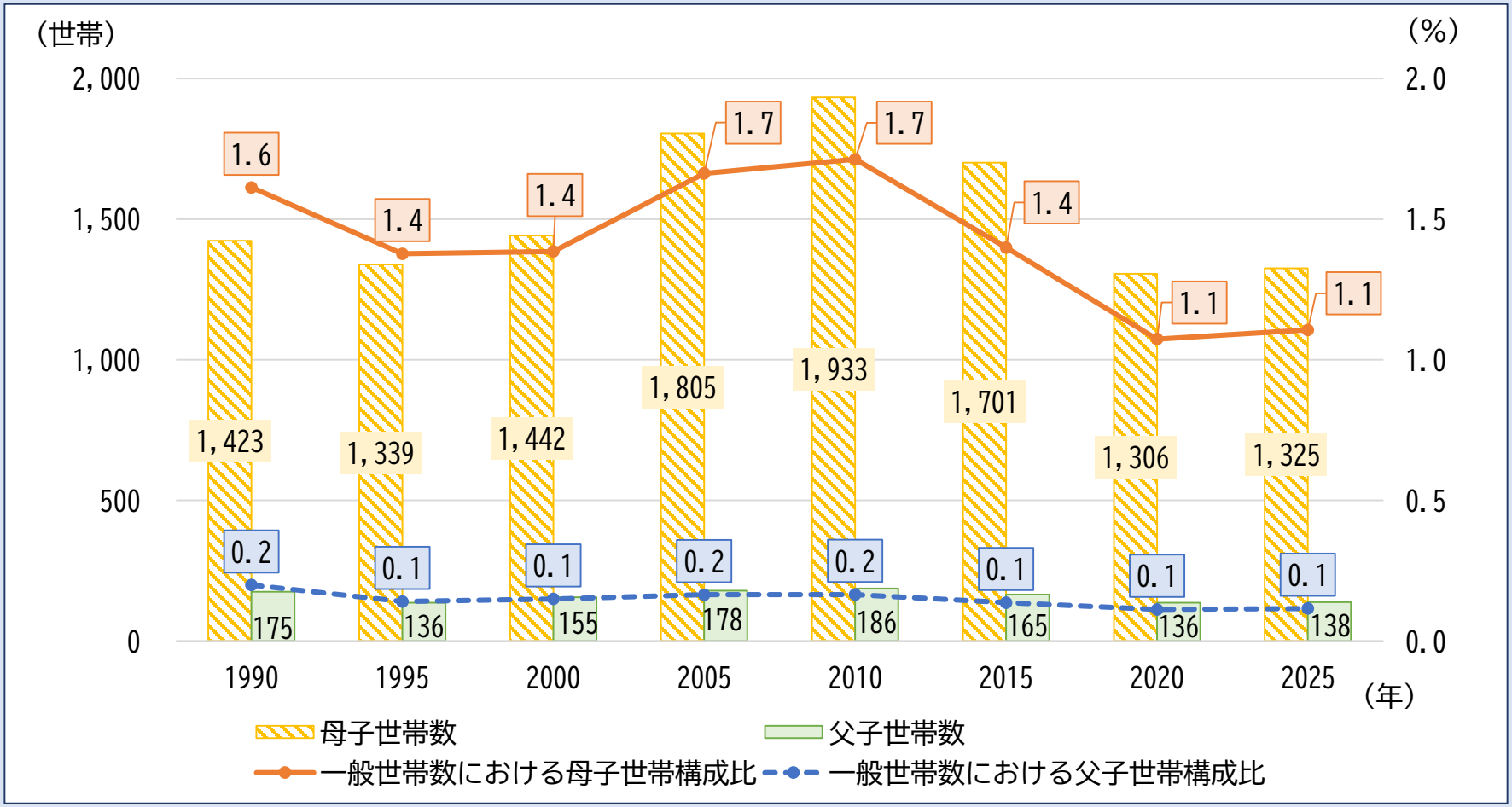
単独世帯は増加傾向にある一方で、核家族以外の世帯（夫婦と両親からなる世帯など）は減少傾向にあります。



母子・父子世帯数

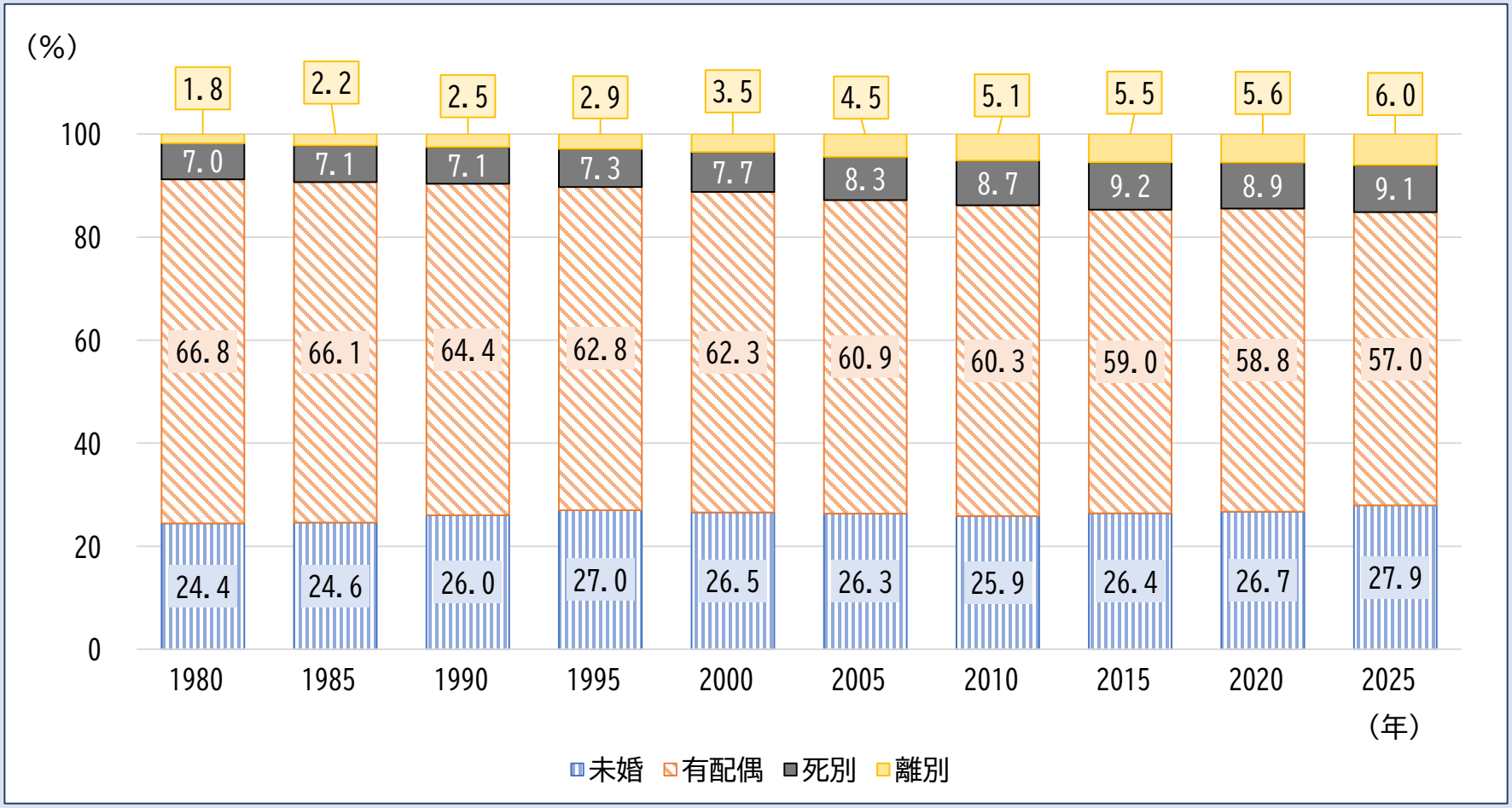
母子世帯は父子世帯よりも約10倍多くなっています。母子世帯、父子世帯について、2010年以降減少していましたが、2025年ではわずかに増加しました。

※母子(父子)世帯：死別又は離別等の女(男)親と未婚の20歳未満の子供のみからなる世帯



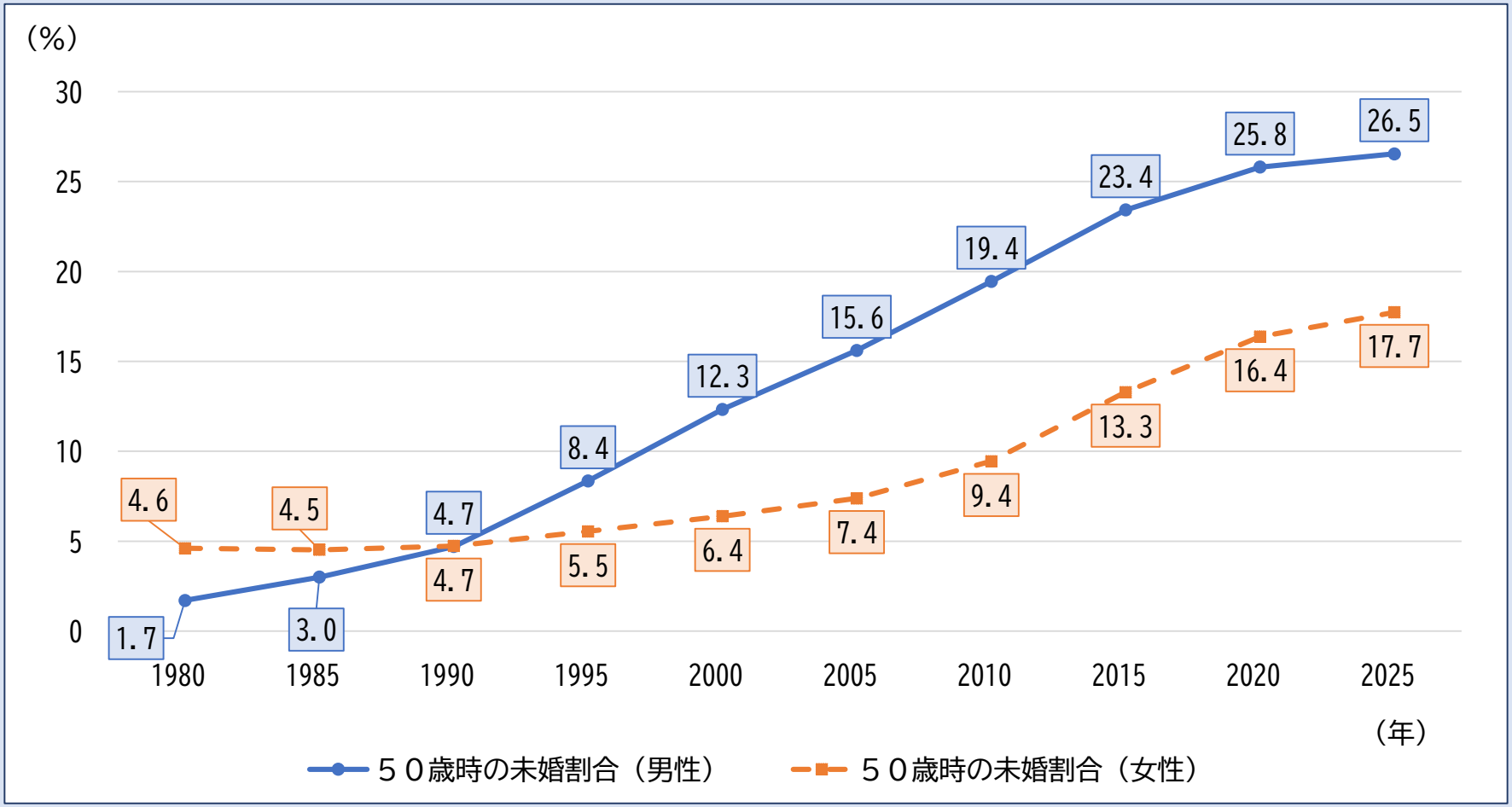
配偶関係

未婚率はやや増加傾向、有配偶率はやや減少傾向にあります。



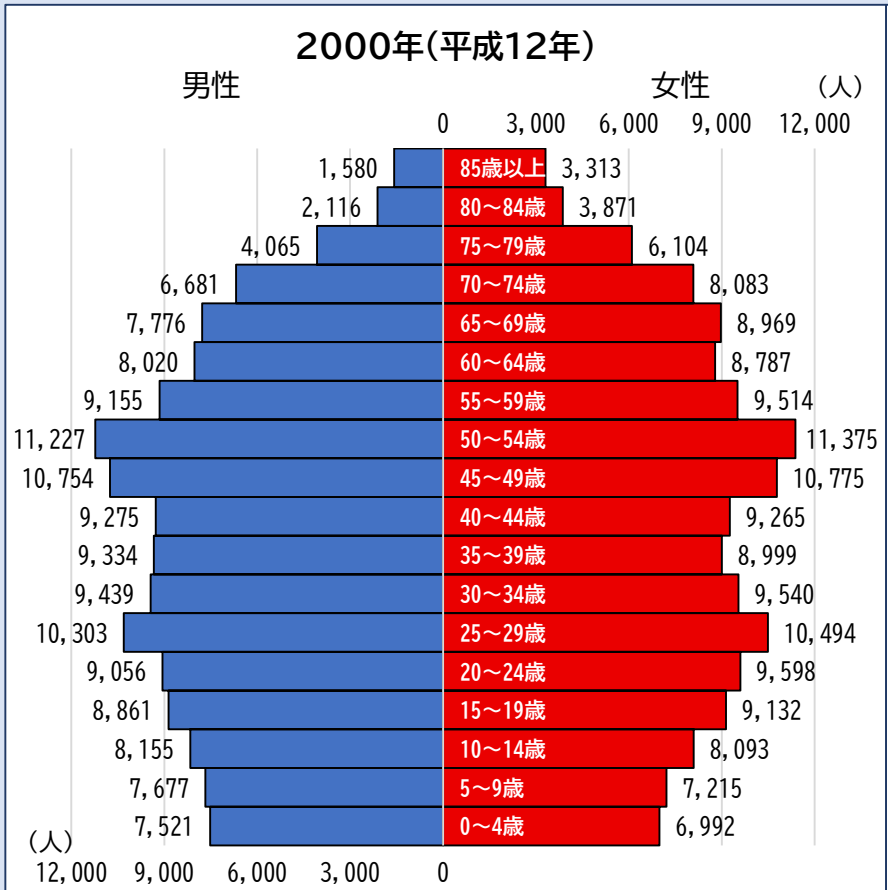
５０歳時の未婚割合

50歳時の未婚の割合は男性が女性より約8%高い状況となっています。

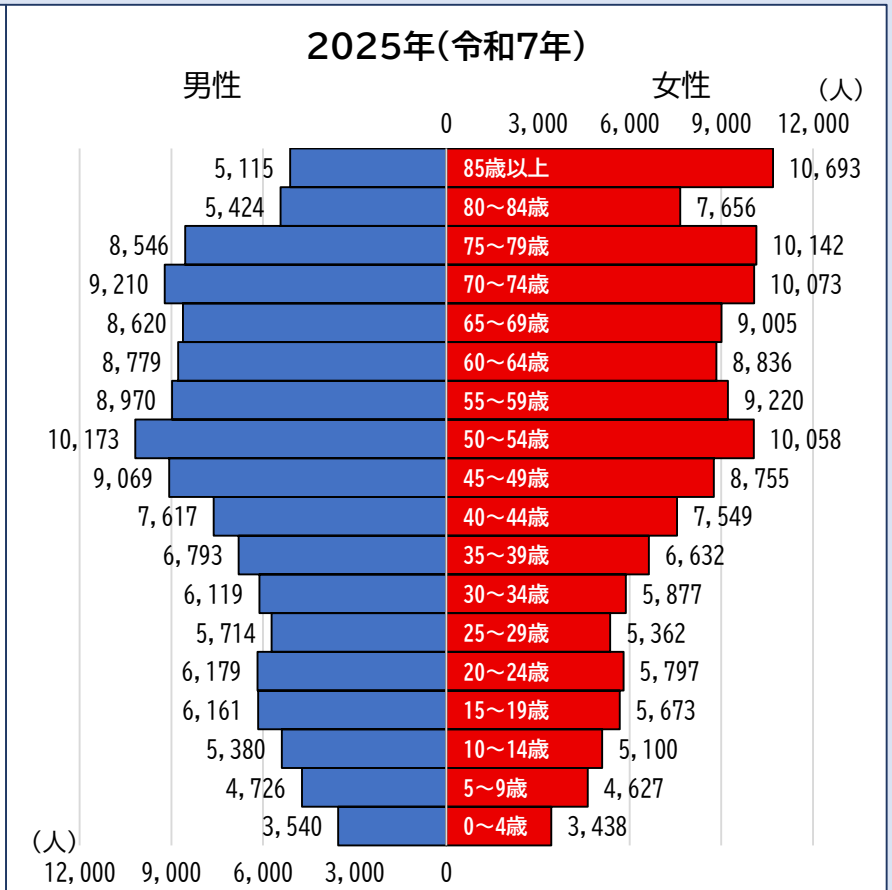


人口ピラミッド（５歳階級）

2000年は重心がやや下にある「つりがね型」に近い形になっています。一方、2025年は団塊の世代の年齢上昇や若年層の流出、出生率の低下などにより重心が上にある「つぼ型」のピラミッドとなっております。

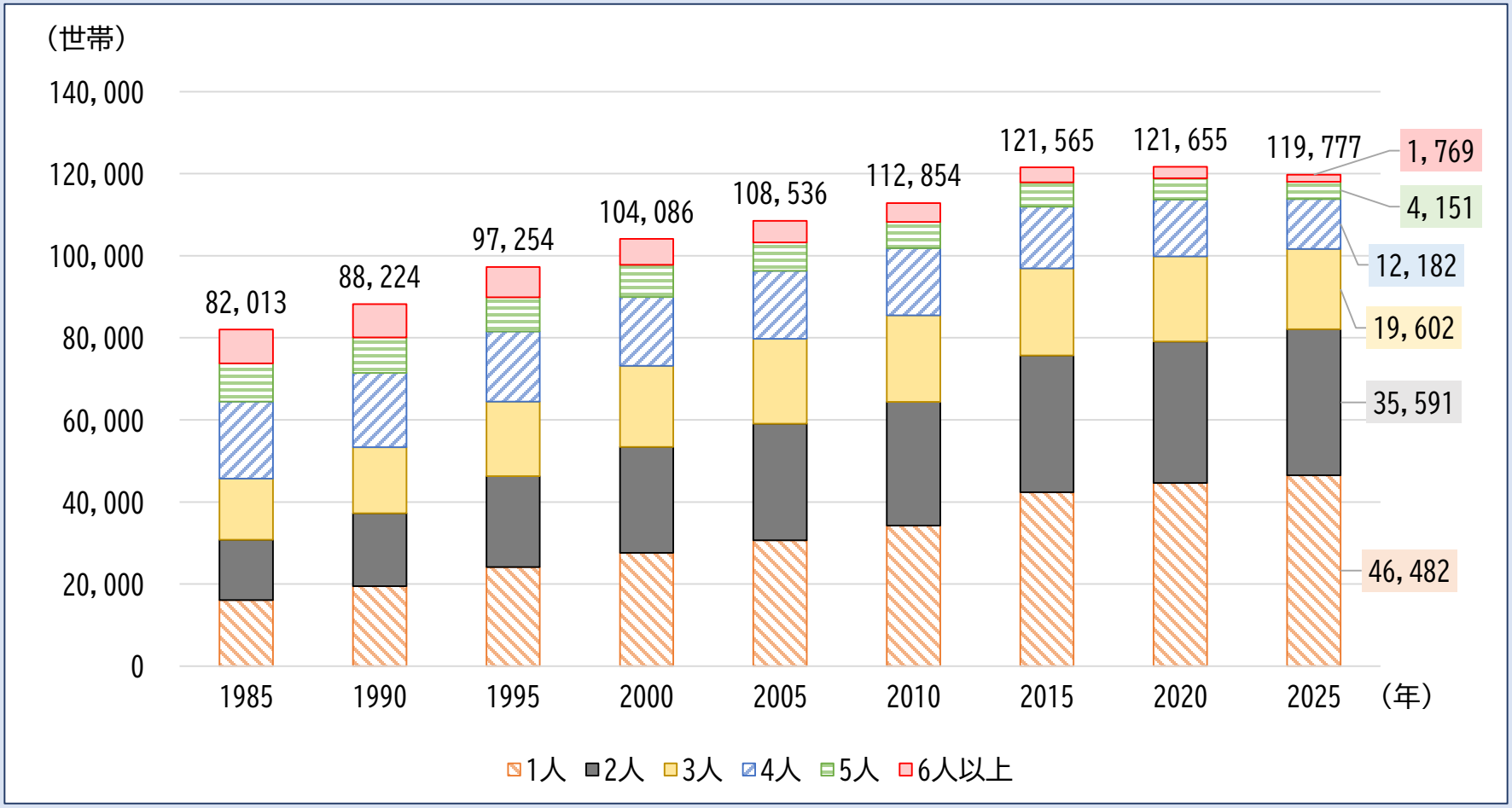


※2000年(平成12年)の人口は、飯野地区を含んでいません。



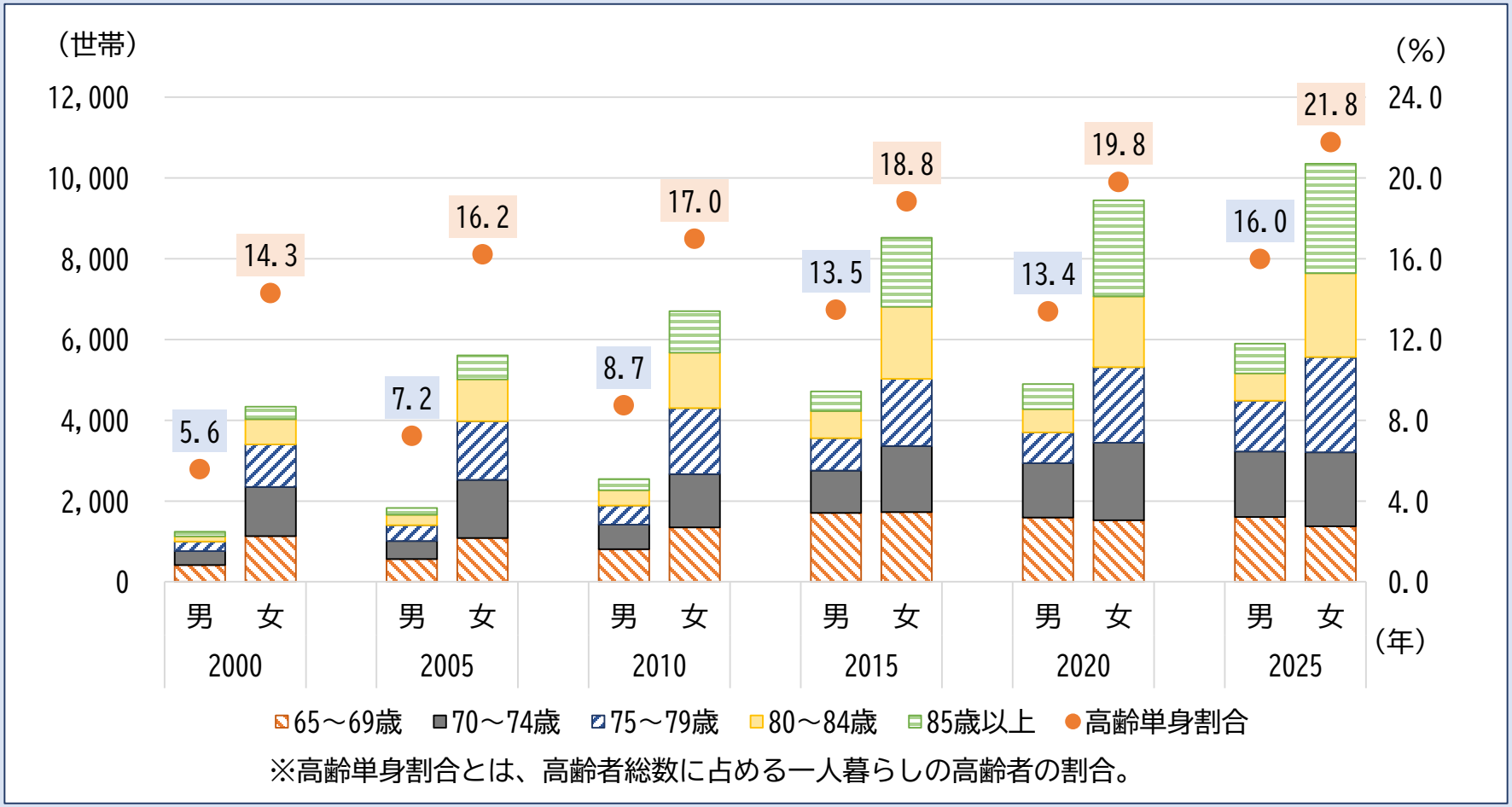
世帯人員別一般世帯数

1人世帯と2人世帯は増加傾向、4人以上の世帯は減少傾向となっています。また、一般世帯数総数については2020年までは増加を続けていましたが、2025年では減少する結果となりました。



高齢単身世帯数

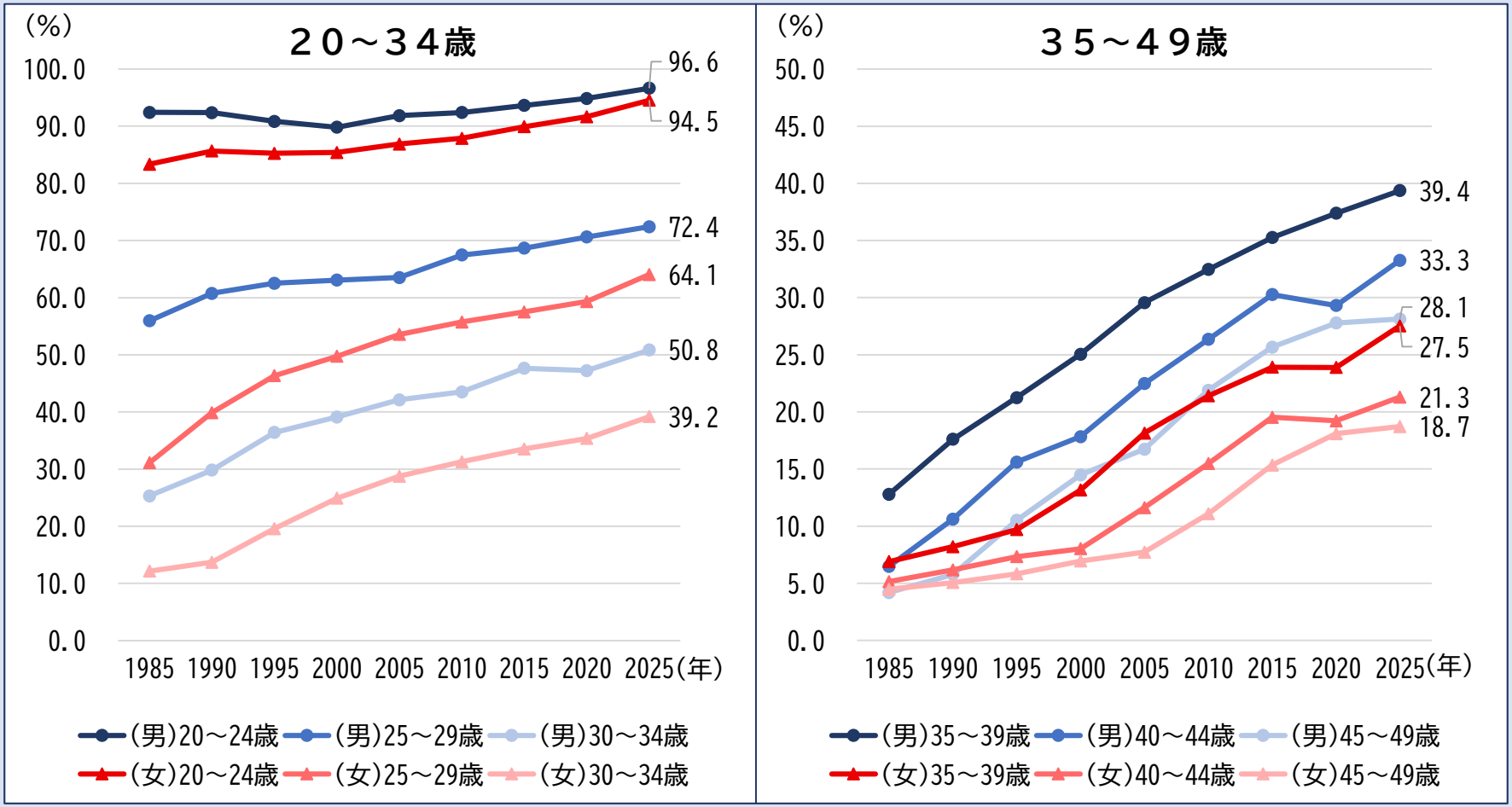
一人暮らしの高齢者の数について、男性、女性ともに増加しています。また、高齢単身割合については、男性と女性の差が縮小する傾向となっています。



※高齢単身割合とは、高齢者総数に占める一人暮らしの高齢者の割合。

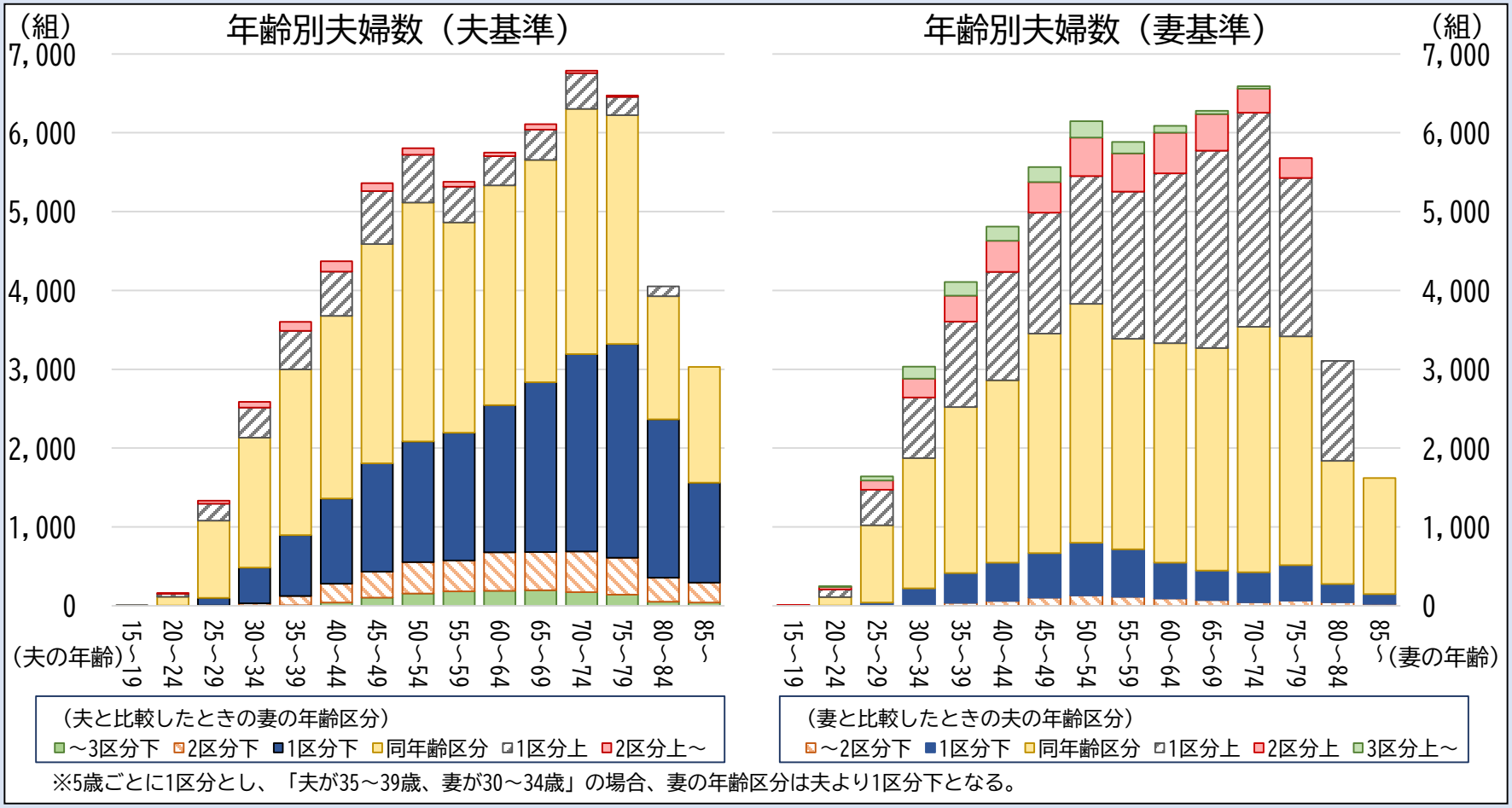
年齢別（５歳階級）未婚割合

全ての年齢区分で未婚率が上昇しています。また、同年齢区分での男女の未婚率の差について、20～34歳では、縮小傾向にありますが、35歳以上では拡大傾向にあります。



年齢別（５歳階級）夫婦数

ほとんどの年代において、同年齢区分の夫婦が多くなっています。また、その次に多いのは妻が夫より１区分下（夫が妻より１区分上）の組み合わせであり、高齢であるほどその傾向が強くなっています。



※5歳ごとに1区分とし、「夫が35～39歳、妻が30～34歳」の場合、妻の年齢区分は夫より1区分下となる。